

Happy New Year 2021

年頭に寄せて

新

年明けましておめでとございます。

この原稿が読まれる頃の日本の状態はわかりませんが、新型コロナウイルス感染症は1月が流行のピークという予測もありますし、今の政府の感染症対策に対する消極的な姿勢をみると、感染者が落ちているということはなさそうです。

医療崩壊を防ぐためにも、感染者を抑え、高齢者に感染が及ばないようにすることが大切です。第一波の時のように、緊急事態宣言を出し、人の流れを止めることが、感染症対策の最も有効な手段です。

しかしながら、人の流れを根本から止めることは、皆さんもご存知のように経済に大きなダメージを与えます。経済的な困窮からの自殺者も増えており、新型コロナウイルスで命を落とさなくとも、人の命が失われていく状況が生まれています。今後は、コロナを正しく恐れることが必要になっています。もう一つの問題、心配事は、過剰な自粛による、小児、成人、高齢者に降りかかる問題です。

謹

んで新年のお慶びを申し上げます。

日頃から皆様には東京都の福祉保健医療行政にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年からの新型コロナウイルス感染症の世界的な流行は、いまだ収束の兆しが見えない状況にあります。

現在、ワクチンや治療薬の研究開発が急ピッチで進められておりますが、ウイルスは消滅することなく、われわれ人類と共存する可能性が高いと考えられております。今後は、感染拡大防止と経済社会活動の両立を図りながら、



東京都福祉保健局 技監

田中 敦子

東京都医師会 会長

尾崎 治夫



小児の場合、乳幼児健診・定期予防接種を怠ると、コロナの影響が少ないとされる小児での新型コロナウイルス感染症以外の疾患や健康への悪影響が心配です。

成人の場合、特定健診やがん検診の受診率が現に低下しており、生活習慣病の発見の遅れ、コントロールの悪化が懸念されます。がんの発見が遅れると、早期では治るがんも手遅れになります。

高齢者の場合、受診控えによる引きこもりは、フレイルの悪化、認知症の悪化を招きます。

「新しい日常」が定着した社会を実現する必要があります。

新型コロナウイルス感染症は、感染症以外の医療や保健活動に対しても大きな影響を与えております。医療機関への受診をはじめ、がん検診や健診、予防接種の受診を控える方も多かつたと思えます。

しかし必要な受診を控えることは健康上のリスクを高める可能性があり、コロナ禍の中にあっても健診やがん検診を定期的に行うことは、生活習慣病やがんの予防に必要不可欠なものです。都といたしましては、感染防止に

こうした状態が続くと、数年後コロナが克服されたとしても、2025年以降にやってくる超少子高齢社会に対応できる日本が存続できるのか、健康寿命の延伸によって明るく元気な超高齢社会をめざすはずだったのがどうなってしまうのか、大変心配しているところです。

ポストコロナ、ウィズコロナを見据えた対策を、政府はしっかりと考えていく必要があります。

怠つてはいけない疾病の予防について、これからも東京都予防医学協会と協力して立ち向かっていくことをお約束して、新年のご挨拶とさせていただきます。

努めながら、都民が安心して検診・健診を受診できるよう、普及啓発に取り組んでまいります。

さらに東京都では、感染症対策を効果的に推進していく新たな拠点として、昨年10月1日に「東京iCDC」を立ち上げました。公衆衛生や感染症診療等の専門家からなる「専門家ボード」も設置し、科学的知見に基づいた提言助言をいただきながら、具体的な対策を進めてまいります。

本年に延期された東京オリンピック・パラリンピック競技大会についても、国や関係団体と緊密に連携して感染対策を行い、アスリート、大会関係者、観客などすべての人々にとって安全で安心な大会運営を行ってまいります。

今後とも福祉保健局では、誰もが地域で安心して暮らせる東京の実現をめざし、東京都予防医学協会の皆様をはじめとする関係団体や区市町村等と連携を図ってまいりますので、引き続きご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年が皆様方にとりましてよい一年となりますことを祈念して、私のご挨拶とさせていただきます。